

ヒヤリハット事例	説明
空荷の1Boxがスリップ	空荷状態で2WDの1Boxを運転していると、雨の日等にスリップする事があります。2WDでは、駆動輪である後輪には前輪の半分しか荷重がかかっておらず、得られる摩擦力が前輪の半分しかない事になります。特に坂道では路面垂直方向の荷重が減るので、タイヤから得られる摩擦力も小さくなり、タイヤが空転する事があります。雪の日は特に注意が必要です。
簡易貫入試験での指挟み	業界でよく聞く事故として、簡易貫入試験での指の挟まれがあります。落ち着いてやれば指を挟むことなど無いと思いますが、ついつい急いで作業をしてしまうのでしょうか。厚手の手袋を着用し、焦らずゆっくり作業する事が大切です。貫入試験器具を簡単に加工して、指が入らない構造にするのも良い事例だと思います。 https://www.zenchiren.or.jp/e-Forum/2014/PDF/2014-082.pdf
農業用水管の管理者を誤解	農業用水管は、主管と枝管で管理者が異なる事があります。これを知らずに一つの管理者と協議を行っても、他方の管を見落とす可能性があります。農業用水管の照会を受けた際には念のために「他で管理している農水管はありませんか？」と聞くことをお勧めします。
農業用水管への接触	農業用水管は、取水口やバルブが地上に飛び出しています。このバルブ、草が繁茂していると見えないことが多く、車等を入れて接触させると簡単に損傷してしまいます。草が繁茂する春から秋は、農業用水が必要な季節と重なり、損傷させると農業への影響は図り知れません。車を侵入させる場合には、草を刈る等して駐車スペースの状態を確実に確認しましょう。
外したガードレールが落下	資機材搬入の際、ガードレールを一時的に撤去する事があります。外したガードレールですが、その重さは想像以上です。安易に外し、その重さに耐えきれなければ落として足や指が挟まれた場合、大けがになる恐れがあります。まずはガードレールが想像以上に重いという認識を持つ。その上で落下させない対策を取り、安全に作業を行いましょう。
ガードフェンスの転倒	ガードフェンスが倒れた事例を聞いたことがあります。紐等で緩く縛って外れたのかもしれませんが。屋内用ケーブルタイ等も使用期間が長いと簡単に切れるので注意して下さい。対策としては上下2箇所縛ったり、専用の固定金具を利用するのが良いかと思います。最上部を0リングで固定する方法もあります。台風接近等、強風が吹く前には特に対策が必要です。
熱中症（安全チョッキ）	安全チョッキの着用を義務付けられる現場が多いかと思います。夏に安全チョッキを着た場合、非常に暑くて熱中症になりそうです。ホームセンター等ではあまり見かけませんが、猛暑対応の安全チョッキが有ります。涼しいだけでなく、一般的なチョッキと比べて軽いのでオールシーズン快適に使えます。インターネットで買えますし、保安用品の専門店にて入手可能です。
自動車自損事故	工事現場では駐車スペースといえど周辺の様子は日々変化していきます。前日と同じ場所に同じように駐車し、用事を済ませ車を移動させた際、助手席側の低い位置に鉄柱の残骸があり接触、左側ドアは醜く凹み、余計な出費となりました。車を発進させる前に周囲の安全確認を行いましょう。
マンホール蓋破損	工場内などでは、車道以外にもマンホールがたくさんあります。車道以外のマンホールは車重に耐えられる設計になっていないことが多く、サビて脆くなっています。トラックなどを緑地帯に乗り入れマンホールの蓋に車輪がかかるとわれてしまいます。物損にとどまらず、運転者、合図者、第三者への人身事故にもつながりかねません。乗ることのない搬入ルートを検討をしましょう。

ヒヤリハット事例	説明
泥水が飛散し、賠償責任	ボーリング作業中に使用しているベントナイト泥水が飛散し、周囲の建造物、備品、車、第三者などを汚すことがあります。起きてはならない事故ですが、突然の出来事に対応仕切れず、事が大きくなりがちです。日頃より高圧ホースの劣化具合、ロッド接合部の密着、圧抜きホースの固定具合など泥水飛散の可能性のある箇所を点検し、作業を開始する癖を付けましょう。泥水は驚くほど遠くまで飛散します。
整理整頓していないために大怪我	ボーリング資材は円筒形のものが多くあります。ロッド、コアチューブ、ケーシング、クラウン、ビットなど工具以外はほぼすべて円筒形です。考えればわかることですが、上に乗れば転がります。乗った人は転倒しかねません。作業エリア内は泥水により滑りやすく、角や突起が多いため転倒すると大ケガとなりかねません。作業中も整理整頓に心がけ、動線上にもものがないようにしましょう。
落としたものを拾いに行きあわや斜面から滑落	地表踏査、傾斜計計測などで急斜面を歩行する場合があります。使っていた工具などを落としてしまい、斜面を転がり崖下へ落下しました。大事な工具であるため拾いに行きました。ところが人が立ち入ることのない斜面、安全対策などありません。容易に「足を滑らせ滑落」が想像できます。工具に紐を付けるなど、落とさない対策を検討しましょう。
アウトリガーで自分の足を踏んだ	移動式クレーンのアウトリガーを設置中、自分の足を踏んでしまいました。考えられないことですが、実際に起きてしまいました。アウトリガー設置部に板を敷くなどし、足先が近寄らない対策をしましょう。
買収済用地内で埋設管破損	買収済用地内でボーリングを行った際、GL-1.7m付近にて隣接建造物へ繋がった水道引込管（φ25mm）を切断しました。古い埋設管は図面が乏しく、正確性も疑われます。しつこい程の事前調査と細心の注意を払い、作業を開始する必要があります。
機械水没	深さ3mの掘削底面にてボーリング作業中に豪雨となりました。作業は休工となりましたが、翌日現場に赴くと、排水ポンプは停止し、機械は水没していました。休工前には現場周辺の見回り、機械器具の点検を行い、休工中のトラブルがないように心がけましょう。
アンビルとハンマーに挟まれ親指骨折	ケーシング打設時に誤って、アンビルとハンマーに親指を挟まれました。親指は複雑骨折、指の腹がなくなりました。「注意して作業」ではケガはなりません。危険な場所を見出す目と、危険な場所に近寄らない、近寄る必要のない対策が必要です。
モノレール発動機破損	モノレールの荷台に長尺の足場材を積載し、発進した。レールが上方に急角度で湾曲していたため、足場材の先端がモノレールの発動機と接触し、操縦部を破損させました。荷台の荷物がはみ出していると、モノレールが曲がった際に思いのほか大きく振れます。荷の積み方と周囲に十分注意し積載する必要があります。
台船乗降時に船に挟まれる	スパット台船乗降時、梯子と船に挟まれると大けがをします。船は波やうねりの状況によって縦揺れや前後揺れを起こします。船首が下がった状態で梯子にいると船首が上がったときに船に挟まれる可能性があるので注意しましょう。
スパット台船が転倒する	防波堤のそばには捨石が転がっていることがあります。スパットが捨石に乗っている場合、かなり不安定な状態となります。心配な場合にはダイバーにより定着しているかを確認する必要があります。

ヒヤリハット事例	説明
忘れ物・落とし物	撤収時に忘れ物に気づくことがあります。道路等で作業を行った場合、落とし物や忘れ物をした状態で交通解放をしてしまうと、交通車両と落とし物が接触してしまいます。忘れ物が無いか、トラックを少し移動させたうえで再度確認することが大切です。
蜂さされ	気が付けば蜂に囲まれていることがあります。9月～10月にかけて、蜂類はとりわけ攻撃性を強めてくるので注意しましょう。巣のありかが分かっている場合は近づかない事。刺された場合の応急処置として、吸引機（ポイズンリムーバー）等を準備しておきましょう。あらかじめアレルギー検査を受けておくことをお勧めします。
ガイド用ロッドが折れる	ハンマー打撃中にガイド用ロッドが折れるとロッドが倒れて落ちてきます。半自動型なら切り離されたハンマーも落ちる可能性があります。メーカーによっては安全装置も開発されているようですので対策を検討しましょう。
落雷事故	雷の音が聞こえたら、建物や車の中など安全な場所へすぐに避難しましょう。稲光を見てから音が聞こえるまで間隔があっても「大丈夫」だと安心出来ません。また、雷は高いところに落ちやすい性質があるので、ボーリング用櫓の傍に居るのは危険です。落雷観測技術は進歩しており、2010年から気象庁による「雷ナウキャスト」という情報提供が開始されています。
火災	ホームセンター等で腰からぶら下げる蚊取り線香を目にします。蚊が多い所では蚊取り線香が重宝されますが、万が一落とした時には火災につながるので注意が必要です。山地や草地では防虫スプレーで対応することが大切です。どうしても蚊取り線香等を使用しなければならない場合は、アウトドア用の様に、取り落しても容易に蓋が開かないタイプの物を使用しましょう。
盗難	工事現場や建設現場といった建設業では、盗難被害に遭うケースが増えているようです。盗難のターゲットは主に金属のようです。少しでもリスクを回避するため、金属製のものから樹脂製のものに変えた方がいいと思います。敷き鉄板ではなくポリエチレン製敷板を採用する等です。最近では規制材等も樹脂製のものが増えています。